

2 度目の異文化間教育学会理事長のご挨拶

加賀美常美代

昨年度の理事選挙で異文化間教育学会の理事長に再選され、2015 年度からあと 2 年、任期を務めさせていただくことになりました。学会を創設された諸先輩の会員の方々の熱い思いと志を引き継ぎ、次世代に円滑に橋渡しできるように、微力ではありますが、異文化間教育学会の安定した学会運営とよりよい研究基盤づくりに力を尽くしていきたいと思いをします。

2 年前も申しましたが、昨今の多文化化された社会で生じた多様な問題や社会的課題がありますので、学会として学問的知見だけでなく、教育実践からもその解決に貢献すること、さらに、地域社会や学校コミュニティでの多様性理解を促進させることを社会的使命として、多様な学びの場を創っていきたくて思っております。特に 36 回大会では「温故知新」というテーマでワールドカフェをいたしました。多様な年代の会員相互の交流の場として活発な意見交換ができました。また、学会の歴史の継承、“異文化間教育”の”間“の意味の再認識など、新しい会員にとっても学会により関与できる意味深い企画でした。こうした企画のように、若い年代の方々が参加しやすい、既成の学会のシンポジウムや研修会にとらわれない形での多様な学びの場を今後も創っていきたくて思っています。

次に、紀要の発刊から現在までの 30 数年の異文化間教育の学術的成果を「異文化間教育学体系」として取りまとめ、その知見を広く社会に発信することです。現在、佐藤郡衛編集委員長を中心に体系化の編纂事業が継続して推進され、最終的な段階に来ておりますので、関係されている会員の方々には継続してご協力くださいますよう、よろしく願います。

最後に、異文化間教育という専門分野をアイデンティティとする若い世代の会員の方々に、積極的に委員会活動に参画してもらい、新しいアイデアを学会運営に取り入れながら、会員相互の世代交流をしていきたくて思っています。それとともに、将来を担う新入会員の獲得に努力し、安定した財政とより健全な学会運営をめざしていきたいと思っています。今後も、若手研究者、学生会員が積極的に学会活動に関与できる多様な機会を設け、魅力ある、居心地のよい学会コミュニティを創っていきたくて思っています。

このように、「多様な学びの場の創成」、「多文化社会への発信力」、「若手育成と世代連携」を掲げ、学会独自の学術的アイデンティティを重視し、他学会との連携を保持しながら、学術的交流もより充実したものとしていきたくて思っています。会員の皆様にも、色々ご意見をいただき、学会運営がよりよい方向に進むようにご協力、ご助言をいただけましたら幸いです。異文化間教育学会のさらなる発展のために、どうぞお力を貸していただけますよう、よろしく願います。